

2023 年度 YOKOHAMA-SXIP  
派遣プログラム参加学生の声

氏名	矢能 元気		
所属	横浜国立大学理工学部機械・材料・海洋系学科 海洋空間のシステムデザイン教育プログラム	学年	学部 4 年
派遣先大学	ペロール工科大学 Vellore Institute of Technology (VIT)		
期間	2023 年 12 月 07 日～ 2023 年 12 月 17 日		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

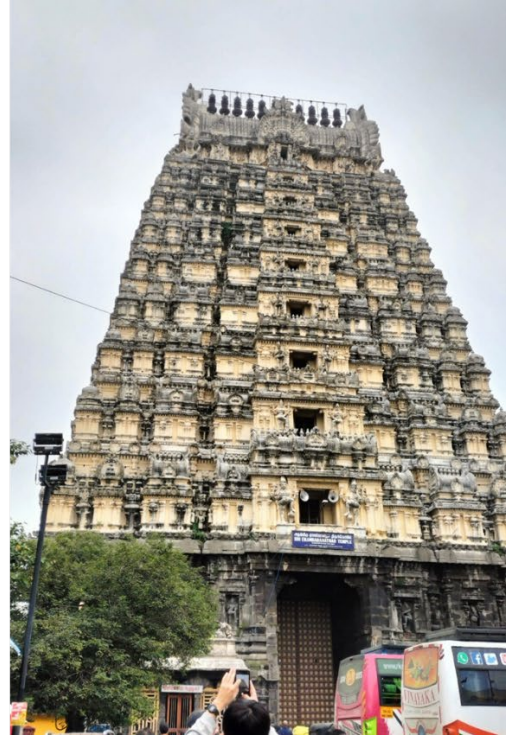
研究室見学、皮革工場で水リサイクルシステムの見学、VIT と横国を含む共同開催の学会にも参加した。化学分野の学会であり、水のリサイクル、廃棄物の活用等の研究が見られた。研究室見学も化学分野であり、VIT は化学分野の研修が多かった。語学面では、リスニング、スピーキングが苦手な上、インド英語が現地言語の流暢さが入っているためか聞き取れない事があった。また、研究室の学生の英語が堪能であり、言い回しが違い分からないこともあった。しかし、研修後半は聞き取ることができ、表現方法や会話などの学びとなった。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

電子決済の普及度で驚いた。学食から町中の屋台の果物売りでも同一の paypay のようなものをインドの方は使っていて、日本よりも電子決済が当たり前で驚いた。インドはカースト制度があり、貧富の差が激しいというイメージであった。しかし、文化的に靴ではなく素足の人がいったり、洋服の質等ではカーストや貧富の差は分からなかった。しかし、カーストは職での分類があるので、構内の清掃の人や食堂の人に尋ねることはできなかったので、分からないところでカーストはあったのかもしれない。Vellore は VIT 含む複数のキャンパス中心にできた都市の形をしていて、他都市とは車で 3 時間離れている。複数都市を回ったが移動はどこも 3 時間であり、インドの広大さと不便さを知った。また、都市間の農村地の建物と都市での建物は、差が激しく、都市と農村地での貧富の差は激しいのかもしれない。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

インドに行く機会などなかなかないので是非参加してほしい。  
インドは治安が悪く、異臭がしたりすると思っていた。しかし、vellore や chennai の都市部、観光地で異臭はせず、治安的に前に荷物を持つ場所は存在するが、他国と変わらない。  
インドでお腹を壊さない日はなかったので、気を付けてほしい。歯を磨く、顔を洗う水は水道水であったため、これが原因かもしれない。一方、VIT 宿泊施設は、洗濯機はなく手洗いだ、湯沸かし器、ドライヤー、テレビ、冷蔵庫付き 2 人部屋であり、部屋に香辛料等の町中の匂いはせず、最高であった。また、インドの方と食事に行くとご馳走していただき、優しい人ばかりである。



2023 年度 YOKOHAMA-SXIP  
派遣プログラム参加学生の声

氏名	風呂田潤		
所属	理工学部 化学・生命学科	学年	4
派遣先大学	VIT		
期間	2023 年 12 月 7 日～2023 年 12 月 17 日		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

派遣先である VIT では、主に化学工学の分離・精製の機器について学びました。現地では水問題が深刻であり、その問題を解決するために様々な分離・精製技術を用いた研究が行われていました。語学面では、海外映画や英語リスニングの会話と、実際に現地で話されている会話のスピードやアクセントにかなり差があると感じました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

派遣先である VIT 周辺の南インドではかなり貧富の差が激しいと感じました。空港周辺には日本と同じような大型のショッピングモールがある一方で、少し郊外へ出ると、屋根しかないような家で生活している人がたくさんいました。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

私は今回 SXIP プログラムでインドに行き、後悔していることがあります。それは現地の人に対して、自分から積極的に話しかけなかったことです。国内にいても英語を読んだり、書いたり、聞いたりする機会はかなりあると思います。しかし日本語が分からない人に対して実際に話しかけコミュニケーションを取る機会はそう多くありません。海外留学ではそのような機会がたくさんあります。もしプログラムに参加するのであれば、恐れずに話しかけ、この機会を最大限活用してください。





2023 年度 YOKOHAMA-SXIP  
派遣プログラム参加学生の声

氏名	高山 聡		
所属	理工学部	学年	4
派遣先大学	VIT		
期間	2023 年 12 月 8 日～ 2023 年 12 月 17 日		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

VIT での研修で学んだことは、日本の大学との研究室の違いです。VIT でお世話になった先生の研究室では学生は学部二年生から研究室に所属し、研究活動を始めます。そのため、研究室に出入りする学生が日本の大学よりもとても多いです。さらに日本の大学とは違いサークルや部活動のようなものがなく、また、ほとんどの学生が大学の寮に住んでいるため、全寮制の高校のような雰囲気を感じました。また研究室のつながりが日本の大学よりも強いように感じました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

食べ物では、基本的に辛いものが多かったです。インドの辛い食べ物の多さには複数の要因が影響していて、まず、気候が熱帯や亜熱帯であることです。辛い香辛料やスパイスは暑さや湿気による食材の腐敗を防ぎ食材を新鮮に保つ効果があり、暑い気候においても食欲を刺激します。また辛さには食材を保存する抗菌作用もあるため、保存技術としても採用されています。文化的な好みも影響しており、多様な料理スタイルが存在する中で、辛味や香辛料は食事の豊かな味わいや風味を引き出す重要な要素となっているようです。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

インドへの留学は総じて楽しかったです。特に、今年は TECHNOSCAPE という環境系のカンファレンスがあり、それにも少し参加させていただきました。日本の論文発表会とは違い、カンファレンスの前日に参加する人たち全員で夕ご飯を食べながら文化祭の出し物のような感じでレクリエーションやダンスがありました。そこでするダンスをインドの学生と一緒にステージでやらせてもらったのですが、そのダンスの練習と本番がインドでの生活で一番印象に残っています。現地の学生と交流をしている時間が一番有意義な時間だったと思います。

プログラム参加を考えている学生に対してですが、行こうか迷っているぐらいだったら行った方がいいと思います。普段英語を使っている人たちと交流するのは英語の勉強へのモチベーションになりますし、異文化に触れるのは楽しいですよ。

